

やまちゅうスクエア

吹田市立山田中学校 学校だより 令和6年度 第10号

「間違いや失敗から学ぶ」

校長 小早川 靖樹

山田中学校の校門は、北門・南門とも交通量が多い通りに面しており、朝の時間帯はスピードを出した自動車・バイク・自転車が通過して行きます。また、南門前の横断歩道は見えにくいのか、歩行者が近くにいると停止しないこともあります。登校中の皆さんが「交通事故に巻き込まれないだろうか…。」といつも冷や冷やしています

1月の中旬頃、いつものように南門の前に立っていると、道路の様子が何か違います。「いつもと何が違うのだろうか…?」と道路をよく見てみると、横断歩道の手前に赤く太いライン(ハンプ)が十数本引かれていました。実は、このハンプは地域の方々とPTAの皆さんが警察や市役所に相談していただいたおかげで設置されたのです。このハンプのおかげで、車両のスピードが少し遅くなったような気がします。山中の皆さんが多くの人に見守られていることを改めて実感し、ご支援、ご協力頂いていることを心からありがたく思いました。

授業中に、校内を歩いていると教室の様子が変わり、暗い雰囲気の時があります。それはどういう時かとすると……テスト返却の時です。特にテストが難しく、平均点が低いときは教室がどんよりとした雰囲気になっていることが多いですね。

テストの結果は評価に反映される部分もあるため、自分が思っていた点数より低いと「評価が…。」と考える人もいます。もちろん、そういった部分もありますが、見方を少し変えてみましょう。

「テストで間違えた」ということは、「自分がしっかり理解できていない」または「わかっていない」部分を見つけることができたと言えないでしょうか。テスト勉強をしているときは、テスト範囲を一通りは復習していると思います。でも、一人で勉強しているときは自分がどこをあまり理解できていないかを把握することはなかなか難しいと思います。でも、答案用紙を見れば、一目瞭然です。皆さんには自分の点数を見て「あ～あ…。」と後ろ向きだけになる人にはなってほしくありません。悔しがっても、落ち込んで結構です。そこから「自分がよくわからなかったところ」をやり直して、理解して自分のものにしてほしいと思います。それこそが、次回の定期考査や受験での成績upにつながっていくのです。

テストで満点を取ることは素晴らしいことですし、自分の役割をしっかりこなすことも大切だと思います。でも、間違えない、失敗しない人はいません。必ず間違える場面は来ます。山田中学校の皆さんにはそんな状況を打開できる、「間違いや失敗から学ぶ」人になってほしいと思います。いくら事前に予習をしても、ミスは起きるものです。そのミスを受け止め、自分の力に変えていく、そんな力強い山田生になってほしいと思います。

<山田中学校ブロック(山田中、山五小、南山田小)のめざす子ども像>

1 あいさつのできる子 2 最後までやりとげる子 3 自分の思いを伝えられる子

令和7年1月18日(土)に、千里市民センターで『第42回吹田市中学校「中学生の主張」大会』が開催されました。山田中学校からは、生徒会の皆さんが発表してくれました。



『人一倍努力する大切さ』

吹田市立山田中学校 二年

『初志貫徹』。最初に決めた意志を最後まで全力でやり抜くという意味です。私は中学生になってこの言葉の大切さを知りました。

私は部活動でソフトボール部に所属しています。一年生の頃は習い事のバレエと掛け持ちをして、『習い事と部活動の両立』を目標にしていました。それは思っていたよりもずっと大変でした。ソフトボール部はほとんど毎日活動しているのですが、バレエでも週三回のレッスンがあり、部活動にかけられる時間はみんなよりも少なかったです。それでもどうしてもどちらも頑張りたいので、バレエのレッスンの後に参加したり、バレエのレッスンの前に試合の準備だけをしに行ったりしたこともあります。そして、部活動のない日はバレエのレッスンを時間よりも早く行き、休んでいた分の内容を友達や先生に聞きに行き、みんなについていけるように工夫しました。それぐらい誰よりも一生懸命だった自信があります。しかし、部活動で周りがうまくなっていくのを見て焦りを感じるようになり、バレエを今年の三月の発表会で最後にし、二年生からは部活動に専念しようと決めました。そして、努力の成果を発揮することができ、発表会は無事に成功し、みんな笑顔で送り出してくれて「これから部活動を頑張ろう」と改めて思うことができました。一つの目標を最後までやり抜いたので、悔いなく終わらせることができ、部活動に専念できています。習い事と部活動を両立させたことで、他の人に追いつくためには人一倍の努力が必要だということを学びました。

今、私は『試合に出てもっと勝ちたい』という目標を持って日々部活動に励んでいます。

私はソフトボール部でピッチャーとレフトという二つのポジションをやっているのですが、一つのポジションにかけられる練習量はみんなよりも少ないです。「外野練習でピッチングがあまりできていないな」と思った週は休みの日に父とピッチングの練習をしたり、家の中でクッションに向かって軽いボールを投げたりしています。ピッチング練習でみんながやっている外野の練習に参加できないこともあります。その分、試合の中で失敗してしまったときは、今のプレーはどうして失敗したのか、どうしたら良かったのかを先生に聞きに行くようにしています。

習い事と部活動を両立させたことで、人より努力することの大切さを知り、部活動でも一つ一つのプレーを大切にすることができています。諦めず努力し続けることが今の私たち中学生に必要なことであると学んだ二年間でした。『初志貫徹』。この言葉を大事にして、引退するまでこの「勝つ」という目標を達成するための努力をし続けます。そして部活動を引退した後の人生にも生かしていきたいです。